

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 02 個に関する指導
概要	04 自立活動の指導 06 ケース会議・研究協力・特別支援教育に係る情報発信
事例提供校	高校： 西部地区 全日制 特支： 袋井特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	問題行動を繰り返す生徒について、特性を整理し、効果的な改善方法があれば指導に活かしたいです。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<p>初めに高等学校を訪問し、当該生徒について聞き取りをしました。問題行動を重ねる生徒に、学校は、問題行動への対応策を取ってきたようですが、生徒自身もなぜ問題行動を繰り返してしまうのか、理解できていない様子でした。診断や検査数値もないケースですが、特性を整理すること、問題の背景に目を向ける考え方について説明をしました。</p> <p>後日コーディネーターが高等学校を訪問し、当該生徒の体育の授業を参観しました。</p> <p>当該生徒の情報を持ち帰り、自立活動6区分でその特性を整理し、自立活動課と連携して高等学校の教員が実践可能な改善策について流れ図に当てはめて考えました。</p> <p>次のケース会議に参加をし、特性を自立活動6区分で捉える方法や、当該生徒が強みを活かして課題にアプローチする方法について、具体的な場面や担当を提案して説明しました。</p>

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	自立活動の視点や、6区分 27 項目について、高等学校ではまだ周知が十分になされていない状況です。目に見えている問題だけではなく、その問題の背景を整理するということも、日々の教育活動の中では難しいかもしれません。しかし、今後その視点は必要になっていくと考えます。今回のような研修の機会があるとよいと思います。
	特別支援学校 担当者のコメント
自立活動から生徒の実態を捉え、強みや弱みを整理して、系統的、段階的に学習や日常生活を支援していくことが重要です。そのため、特別支援学校では、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、活用しています。高等学校では、入学後に支援の必要性が判明したとき、関わる教員の協力を得ながら、個別の教育支援計画、指導計画を実際に作成し、活用していくことにまだ課題が多くあるようです。そこを特別支援学校が補っていく必要があると考えます。	

まとめ
特別支援学校での実態のとらえ方や対応方法などについては、高等学校でも参考になるものもあるかと思えます。気になる生徒についての個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等についても、高等学校と特別支援学校間で連携を進めていくことができればよいと思います。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 02 個に関する指導 03 自立活動
概要	高等学校で行う自立活動とはどのようなものですかという相談
事例提供校	高校： 東部地区 全日制 特支： 東部特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	・高等学校で自立活動の指導を導入し、さらに充実させたいのですが、どのようにしたらよいか基本的なことから教えて欲しいです。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<p>教育課程に特別に設けられた障害に対応した指導領域です。障害のある子どもたちの場合は、その障害によって、学習場面や日常生活において様々なつまずきや困難が生じます。なので、生活年齢に即して教育するだけでは十分とは言えません。</p> <p>子どもたちの個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となります。それが「自立活動」です。自立活動の目標は「生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う」ことです。</p> <p>例えば、自己コントロール・相手を意識した行動の学習これまでの学習では、身近な人→関わりがある人→関わりはあまりないが知っている人など段階を踏んで人に尋ねる学習を積み重ねてきました。これまでの学習の過程をクイズ形式で復習し、声のかけ方を練習しておくことで、普段関わりのない人に対して自信をもってインタビュー活動ができました。聞こえづらい時には自ら質問することができました。</p>

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	・今まで高等学校の授業ではあまり実践したことがないですが、こういった授業でよいのであれば、取り入れたいと思います。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<p>自立活動の意味は理解していただけたように思います。実践事例をもっと紹介して実践の中から生徒の変化や成長をとらえて欲しいと考えます。人関係に苦手意識があったり、場面に応じた適切な言葉遣いが分からなかったりする（自分自身はこれでよいと思っている）場合があります。不適切な場面で指摘するよりも、機会を作って具体的な話し方を伝えておく方が効果的です。また、その場でアドバイスする場合は、否定的な言い方ではなく本人が受け止めやすい伝え方をするなど工夫が必要です。</p>

まとめ
<p>学習、生活上の困難さに応じて適切な支援を行い、充実した高等学校生活の実現を図ることが重要です。教員が適切なモデルとなることが生徒にとって大切です。</p>

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。